

(6)ドライブモードを選びます

Z-1カメラには、表のように多くのドライブモードがあり、モードダイヤルを**DRIVE**に合わせ、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回すとドライブモードを変えられます。カメラの状態によって使用できるドライブモードが若干異なります。

※電源スイッチが**■**の場合や露出モードが**HvM・MbU**では、ドライブモードの一部が使えません。

ドライブモード	グリーン ポジション	フルスペックポジション					
		HvP	P	AAV	ATV	HvM	MbU
1コマ撮影	○	○	○	○	○	○	○
連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
オートブラケット撮影	×	○	○	○	○	×	×
多重撮影	×	○	○	○	○	○	○
インターバル撮影	×	○	○	○	○	○	×
トリプルセルフタイマー撮影	×	○	○	○	○	○	×
2秒セルフタイマー撮影	×	○	○	○	○	○	×
セルフタイマー撮影	○	○	○	○	○	○	×

○：使用可能 ×：使用不可能

HvP：ハイパープログラム

P：プログラム

AAV：絞り優先

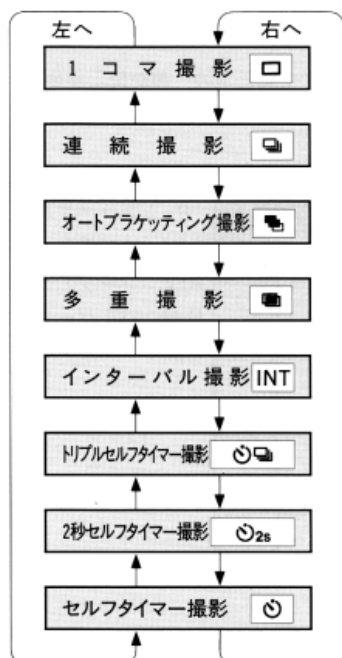
ATV：シャッター優先

HvM：ハイパーマニュアル

MbU：マニュアル(バルブ)

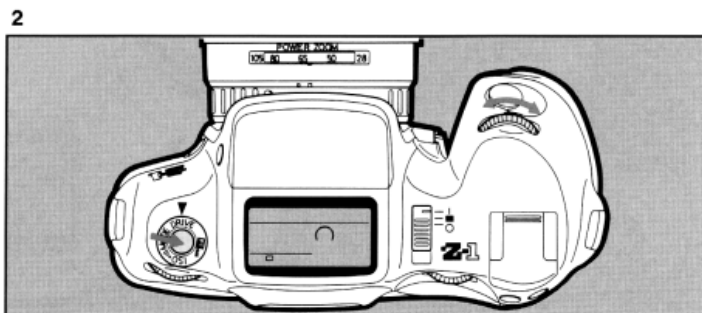
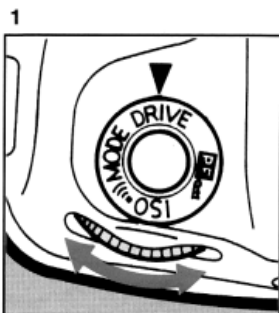
応用的な使い方

59



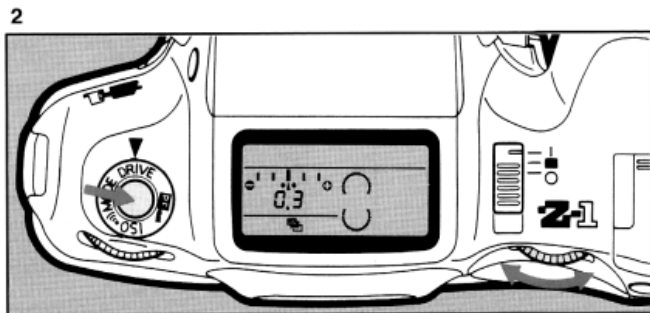
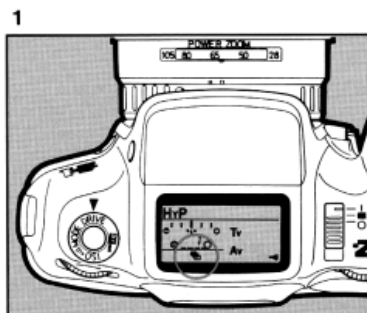
ドライブモードの種類

- ：シャッターボタンを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。
- ：シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。
- ：3コマ連続で露出補正撮影をします。(62ページ参照)
- ：同じコマに、重ねて撮影します。(64ページ)
- INT**：自動間欠撮影をします。(65ページ)
- ：3コマ連続セルフタイマー撮影をします。(70ページ)
- ：タイマー作動時間が2秒のセルフタイマー撮影をします。(69ページ)
- ：通常のセルフタイマー撮影をします。(68ページ)



ドライブモードの変更方法

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせます。
2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回してドライブモードを選択します。
希望のドライブモードが表示パネルに出たら、モードセットボタンから指を離して決定します。



1) オートブラケット撮影の使い方

オートブラケット撮影は、各種自動露出で撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正値を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行なうことができます。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードをオートブラケット撮影  に変更します。(61ページ参照)

2. 図のように、モードセットボタンを押したままAvダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

* 補正量の初期値は、 $\pm 0.3\text{EV}$ 刻みになっていますが、**PF** 設定で $\pm 0.5\text{EV}$ 刻みに変更可能です(87ページ)。

* 補正量が表示パネルにでますので、補正量を決めたら、モードセットボタンから指を離すと補正量が記憶されます。なお、電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。



3. シャッターボタンを押し切ると、記憶させた補正量に従って3コマ連続的に撮影されます。

* 1コマ目=±0、2コマ目=アンダー露出、3コマ目=オーバー露出の順で撮影されます。

* 1コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの が点滅して2コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンス等待つてことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの は約5秒間点滅した後点灯になり、再度1コマ目の待機状態に戻ります。

* 内蔵ストロボを使用すると、オートブラケットン

グ撮影モードは解除され、1コマ撮影モードになります。

* 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。(特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。)

* オートブラケットン撮影中は、1コマごとに測光を行いません。

* ピントは、1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。

露出補正と組み合わせて使う場合

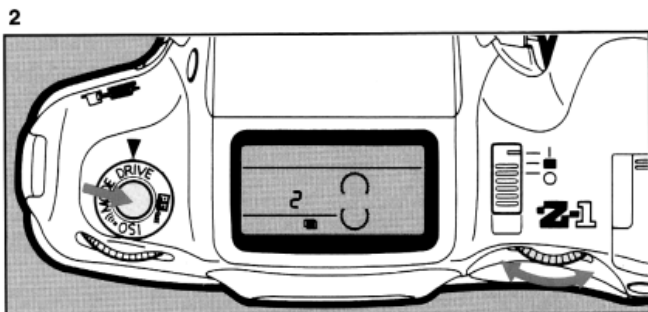
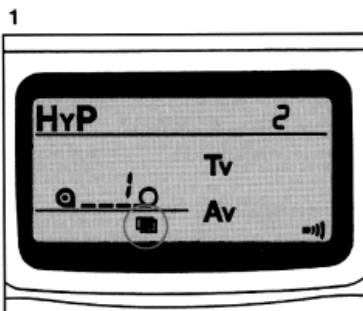
「露出補正」(58ページ)と組み合わせて使うと、オーバー(+)方向のみやアンダー(-)方向のみ補正したオートブラケットン撮影も可能です。

例) オーバー方向に0.3EVづつ補正をかけるとき。

1. ドライブモードをオートブラケットンモードにし、補正量は0.3EVに設定する。

2. カメラ背面の露出補正ボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回し、全体の露出値を0.3EV(+)方向に補正する。

3. この状態でオートブラケットン撮影をすれば、1コマ目=+0.3EV・2コマ目=±0EV・3コマ目=+0.6EVの補正がされます。



2) 多重露出撮影の使い方

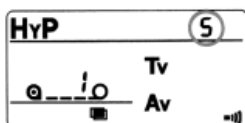
フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などを作ることができます。

1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせ、ドライブモードを多重露出 に変更します。(61ページ参照)

2. モードセットボタンを押したまま、Avダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数(1コマの中に写し込む回数)を決めます。

* 1回の多重露出で設定できる写し込み回数は、2~9回です。

3. 図のように、設定した写し込み回数が表示パネルに出ます。シャッターボタンを押して撮影する度に、この表示は減算されます。

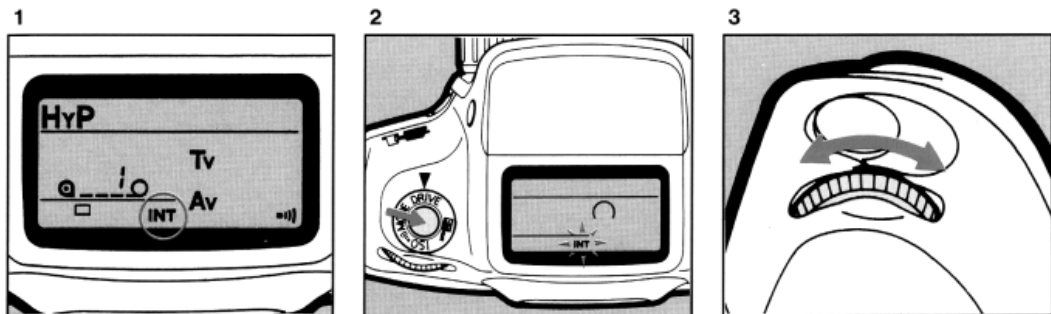


* 多重露出の途中は、表示パネルの が点滅してお知らせします。

* 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを か にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを に戻したとき、1コマ撮影モード になります。

* 多重露出では、背景が黒いもの(夜景など)に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良好な結果を得ることができます。

* 撮影終了後は多重露出の回数2に戻り、ドライブモードは1コマ撮影 になります。



3) インターバル撮影の使い方

撮影開始までの時間・撮影間隔時間・撮影枚数を設定し、自動撮影をすることができます。

設定方法

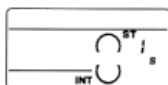
1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードをインターバル **INT** に変更します。(61ページ参照)
2. モードセットボタンを約2秒間押したままにして、表示パネルの **INT** を点滅させて、モードセットボタンから指を離します。

3. 図のようにTvダイレクトダイヤルを回して、変更する各設定項目を選択します。各設定項目については次ページをご覧ください。

※各設定が終了したら、モードセットボタンを押して撮影モードに戻してください。

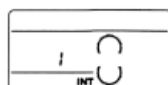
① 撮影開始までの時間の設定

1. Tvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **ST** を表示させます。



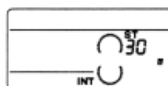
③ 撮影枚数の設定

1. Tvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに撮影枚数を表示させます。



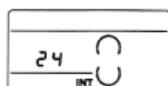
2. Avダイレクトダイヤルを回して、撮影開始までの時間を設定します。

※時間の設定中は時間の単位 (s = 秒, m = 分, h = 時) が点滅します。



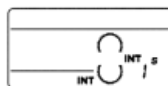
2. Avダイレクトダイヤルを回して、撮影枚数を設定します。

※設定が終了後、モードセットボタンを押して、設定変更モードを解除してください。



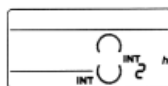
② 撮影間隔時間の設定

1. Tvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **INT** を2つ表示させます。



2. Avダイレクトダイヤルを回して、撮影間隔時間を設定します。

※時間の設定中は時間の単位 (s = 秒, m = 分, h = 時) が点滅します。



設定の内容について

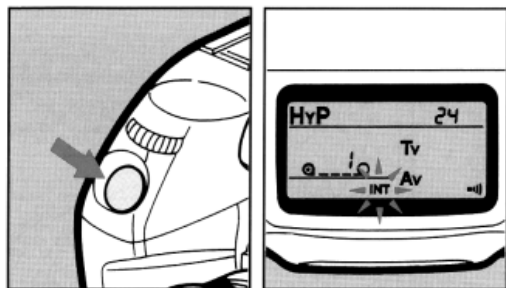
(表示例: 10s = 10秒, 1m = 1分, 1h = 1時間)

① 撮影開始までの時間および② 撮影間隔時間

1秒～24時間まで設定可能: {1s～10s(1秒刻み)・10s～1m(10秒刻み)・1m～10m(1分刻み)・10m～1h(10分刻み)・1h～24h(1時間刻み)}

③ 撮影枚数の設定

1コマ～36コマまで設定可能: {1コマ刻み}



インターバル撮影の開始

三脚などにカメラを固定してシャッターボタンを押し切ると、設定した時間によってインターバル撮影が開始されます。

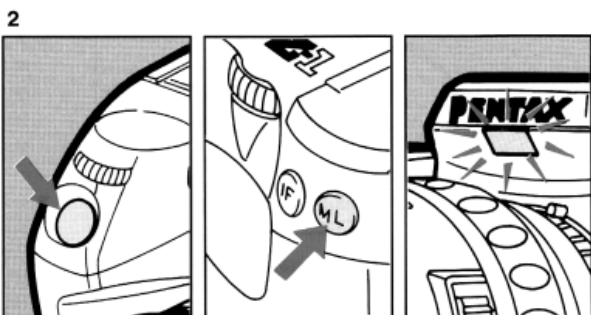
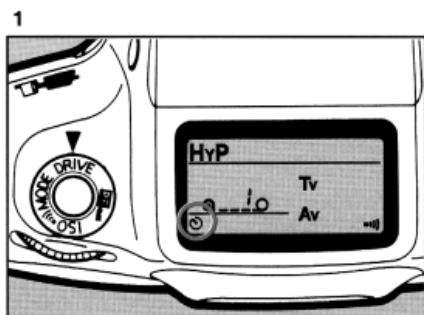
- * ピントは1コマ目でフォーカスロックされますが、測光は毎回行なわれます。
- * インターバル撮影途中でも、シャッターボタンを押すと、通常通りに撮影できます。
- * インターバル撮影中は、表示パネルの「INT」が点滅してお知らせします。
- * インターバル撮影が終了すると、インターバル撮影モードは解除され、ドライブモードは1コマ撮影□になります。
- * インターバル撮影を中断するときは、ドライブモードを他のモードにするか、電源スイッチを○か

■にします。

- * インターバル撮影中にモードセットボタンを押すと、押し続けている間はインターバルタイマーが止まります。なお、モードダイヤルが「DRIVE」になっているときに2秒以上押し続けていると、インターバルの設定状態になり、設定を終了すると新しい設定に従ってインターバル撮影を再開します。
- * インターバル撮影の時間設定は、電池を入れ替えるまで前回の設定内容を保持しています。新たにインターバル撮影をするときは、各値を設定し直してください。
- * 設定した撮影枚数より先にフィルムが終了した場合、自動的にフィルムを巻き戻します。(□設定で「自動巻き戻しする」になっている場合。)
- * インターバル撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出の変化に注意してください。ファインダーから目を離して撮影する場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

応用的な使い方

67



4) セルフタイマー撮影の使い方

セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

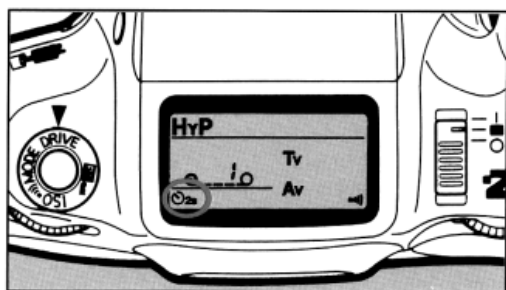
1. モードダイヤルを「DRIVE」に合わせ、ドライブモードをセルフタイマー○に変更します。(61ページ参照)
 2. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたまま、メモリーロックボタン「ML」を押します。そのままシャッターボタンを押し切ると、セルフタイマーが始動し、約12秒後にシャッターが切れます。
- * セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプ

と電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピッピッピ」になります。なお、□設定により、電子音を消すこともできます。(95ページ)

- * セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを○にしてください。この場合でも、セルフタイマー撮影モードは解除されません。
- * セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時にメモリーロックボタン「ML」を使わないで撮影する場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

応用的な使い方

68



5) 2秒セルフタイマー撮影の使い方

2秒セルフタイマー撮影は、近接撮影や複写などをすると、ケーブルスイッチFの代用にご利用ください。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードを2秒セルフタイマー撮影  に変更します。(61ページ参照)
2. 通常のセルフタイマーと同じ要領で、ピント合わせとメモリーロックをしてからシャッターボタンを押し切ってセルフタイマーを始動すると、約2秒後にシャッターが切れます。

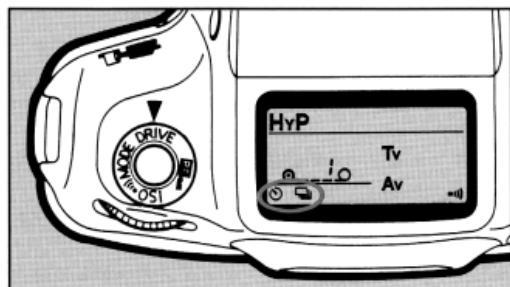
*セルフタイマーを始動すると、セルフタイマーランプの点滅と電子音(速い断続音)で知らせます。なお、 設定で電子音を消すことができます。(95ページ)

*セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを  にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影  になります。

*セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出に影響を受ける場合があります。自動露出で撮影時メモリーロックボタン **ML** を使用しない場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

応用的な使い方

69



6) トリプルセルフタイマー撮影の使い方

トリプルセルフタイマー撮影は、シャッターボタンを押し切った後、約12秒後に3コマ連続撮影ができます。記念写真などで、焼き増しが面倒なときやポーズを変えた3枚の写真を気軽に作ることができます。

1. モードダイヤルを **DRIVE** に合わせ、ドライブモードをトリプルセルフタイマー撮影  に変更します。(61ページ参照)
2. 通常のセルフタイマー撮影と同じ要領でセルフタイマーを始動し、撮影します。

トリプルセルフタイマーは、次の間隔でシャッターが切れます。

・12秒後(1コマ目)→2秒後(2コマ目)→2秒後(3コマ目)

*ピントは1コマ目の撮影位置でフォーカスロックされますが、測光は毎回行なわれます。

*3コマ撮影終了後は、ドライブモードは1コマ撮影  に戻ります。

*ストロボを使用するときは、ストロボの充電完了を確認してから、セルフタイマーを始動してください。2コマ目と3コマ目は、ストロボの充電が完了してから、2秒後に撮影されます。ただし、ストロボの充電が7秒を超える場合には、セルフタイマーが解除されます。

*セルフタイマーを始動後に解除したいときは、電源スイッチを  にしてください。なお、電源スイッチを入れ直すと、ドライブモードは1コマ撮影  になります。

*セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光による露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時にメモリーロックボタン **ML** を使わないで撮影する場合は、付属のファインダーキャップをご利用ください。

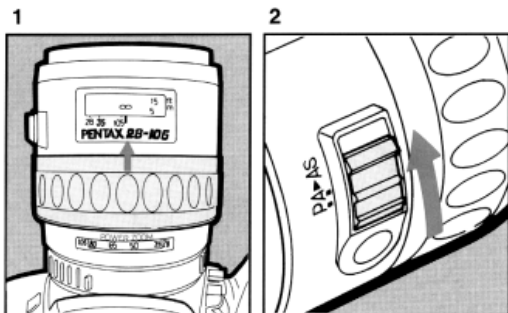
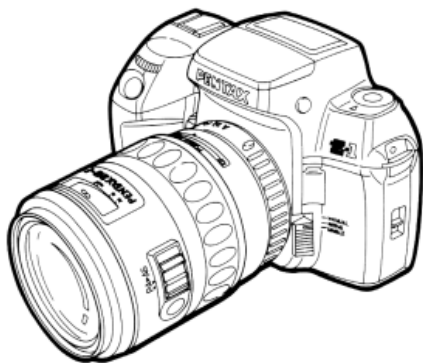
応用的な使い方

70

(7) パワーズームの拡張機能

FAズームレンズをZ-1と組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。

- ①ズームクリップモード
- ②イメージサイズ指定モード
- ③露光間ズームモード

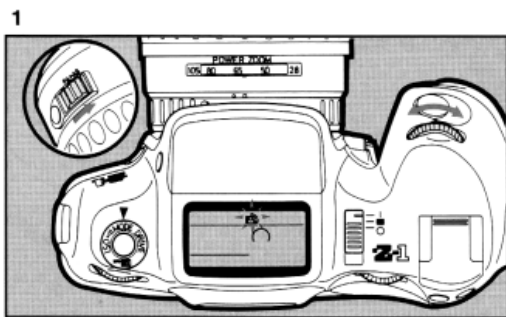


応用的な使い方

オートズーム機能を使うための準備

1. レンズのズームリングを前側に押し出すようにして、図のように**POWER ZOOM**が見える状態にします。
*工場出荷時は、この状態です。
2. レンズのオートズームスイッチを**A**（一部のレンズでは**AZ**）に合わせます。
*これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。

71



①ズームクリップモードの使い方

ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶させておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。

例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲(焦点距離)を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。

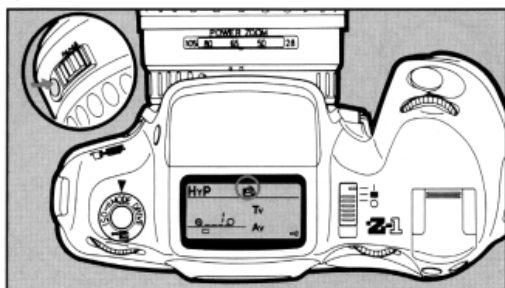
* **PF** 設定で、2箇所の焦点距離を記憶させ、ボタンを押すごとに交互に記憶した焦点距離を呼び出すこともできます。(91ページ)



1. レンズのオートズームスイッチを**AS**（一部のレンズでは**MODE**）側に押し付けたままTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに**AS**表示を点滅させてください。
*ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを**P**（一部のレンズでは**PZ**）に戻してください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの焦点距離に合わせます。

応用的な使い方

72

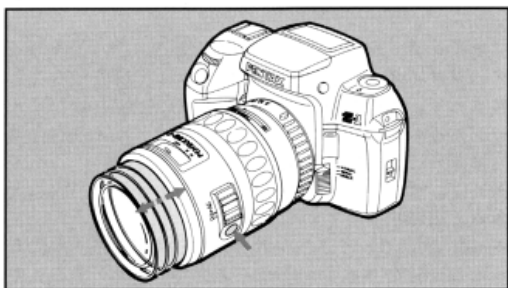


3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの **[Hi-P]** 表示が点灯になり、焦点距離が記憶されます。

* 新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。

* **[PF]** 設定で2箇所の焦点距離を記憶できるようにした場合(91ページ)、ここまでの1.~3.の操作をもう一度行なうと、2番目の焦点距離を記憶することができます。さらに焦点距離を記憶させると、最初に記憶させた内容の代わりに、新しい焦点距離が記憶されます。

* 電源スイッチを **[OFF]** にしても、記憶した内容は消え



ません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしまいますのでご注意ください。

* 電源スイッチが **[I]** または **[II]** のままレンズを外したり、レンズの交換をすると記憶している内容が消えてしまいます。記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを **[OFF]** にしてください。

4. ズームセットボタンを押して、記憶した焦点距離を呼び出して撮影します。

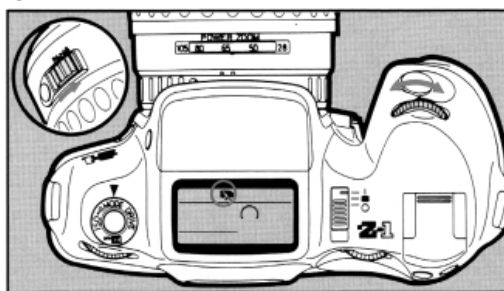
* **[PF]** 設定で2箇所の焦点距離を記憶できるようにした場合(91ページ)、ズームセットボタンを押すごとに、記憶した2箇所の焦点距離を交互に呼び出すことができます。

② イメージサイズ指定モードの使い方

ファインダーを覗きながら構図を決め、そのときのイメージサイズ(撮影倍率)をカメラに記憶させることによって、撮影距離が変わっても常に記憶させたイメージサイズ(撮影倍率)になるように、カメラが自動的にズーミングする機能です。

例えば、近づいたり遠ざかったりする子供を、同じ大きさで撮影することができます。

* **[PF]** 設定で、イメージサイズの初期状態を「常に人物の全身が写るようにカメラがズーミングする」や「常に人物の上半身が写るようにカメラがズーミングする」にすることができます(91ページ)。この場合でも、撮影者が新たにイメージサイズを記憶させることができます。なお、イメージサイズの記憶内容を変更した後も、カメラの電源スイッチを入れ直すだけで、初期状態(人物の全身あるいは、上半身)に戻すことができます。



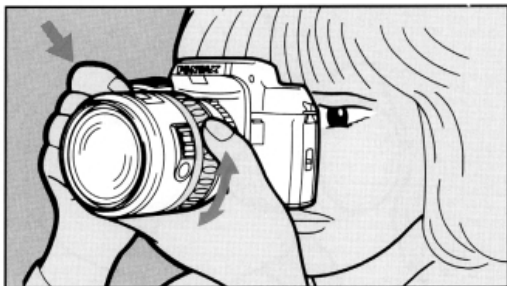
1. レンズのオートズームスイッチを **[AS]** (一部のレンズでは **[MODE]**) 側に押し付けたまま **Tv** ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[MODE]** 表示を出します。

* フォーカスモードレバーが **[MANUAL]** になっていると、イメージサイズ指定モードは使えません。

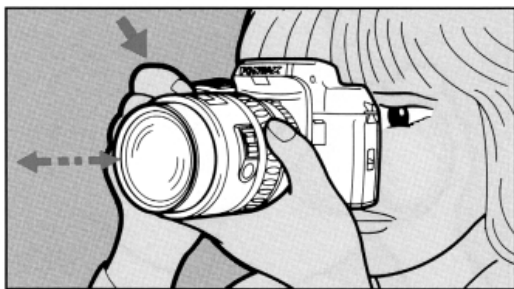
* イメージサイズ指定モードを解除するときは、オートズームスイッチを **[P]** (一部のレンズでは **[PZ]**) に戻してください。



2. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせ、ファインダーの合焦表示「O」を点灯した状態にします。
- *このとき、前回の記憶内容に従って、自動的にズームリングされます。
3. シャッターボタンを半押ししたまま、ズームリングを操作して好みの位置までズームリングします。ズームリングの操作を終了すると、その時点のイメージサイズをカメラが記憶します。



- *ピント合わせをしたあとでズームリングをすると、多少ピントがずれてしまうことがあります。この場合は、もう一度ピント合わせをやり直してからズームリングしてください。
- *イメージサイズを記憶させるときは、カメラのフォーカスモードレバーは「**SINGLE**」にしておくほうが簡単にイメージ記憶の作業ができます。
- *被写体が動体でカメラのフォーカスレバーを「**SERVO**」にして使う場合、ズームセットボタンを押したままシャッターボタン半押しでピントを合わせ続けて、被写体の大きさが好みのサイズになったところで、ズームセットボタンから指を離すと簡単にイメージサイズが記憶できます。



4. シャッターボタンを半押しすると、撮影距離が変わっても被写体の大きさが一定になるように自動的にズームリングします。ズームリングが終了してからシャッターボタンを押し切って撮影してください。
- *ズームリング中にシャッターボタンを押し切ってしまうと、指定したイメージサイズになりません。シャッターボタンは、ズームリングが終了してから押し切ってください。
- *撮影距離が近すぎたり遠すぎたりすると、ズームレンズの焦点距離範囲を超えてしまい、指定したイメージサイズになりません。また、他のレンズに交換した場合も、前のレンズで記憶したイメージサイズ

で制御されますので、指定したイメージサイズにならない場合があります。

- *イメージサイズ指定モードのときにフォーカスモードレバーを「**MANUAL**」に切り替えると、ズームクリップモードに切り替わります。
- *電源スイッチを「**OFF**」にしても、記憶されている内容は消えません。
- *電源スイッチが「**ON**」または「**LOCK**」のままでレンズを外したり、レンズ交換をすると記憶している内容が消えてしまいますので、記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを「**OFF**」にした状態で行なってください。
- *新たにイメージサイズを記憶させると、前の記憶内容は消えてしまいます。
- *イメージサイズを決めるときには、焦点距離を使用するズームレンズの中間付近にすると、利用範囲が広がり使い易くなります。例えば、28~105mmレンズでしたら焦点距離を65mm付近にすると便利です。
- *電池を抜くと記憶している内容は消えてしまいますので、ご注意ください。
- *被写体が動体で、フォーカスモードレバーが「**SERVO**」の場合、イメージサイズが一定にならないことがあります。

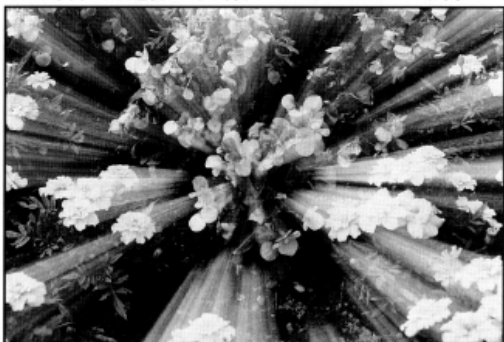
③露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側にオートズーミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。

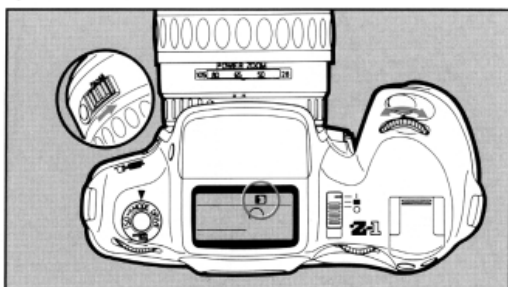
* **PF** 設定で、望遠側から広角側にオートズーミングの方向を変えることができます。(92ページ)

* 露光間ズームモードでは、ストロボを後幕シンクロにセットしても、先幕シンクロで制御されます。

この写真は、望遠側から広角側へオートズームさせています。



1



応用的な使い方

1. レンズのオートズームスイッチを **AS** (一部のレンズでは **MODE**) 側に押し付けたまま Tv ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに **[D]** 表示を出してください。

* 露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを **P** (一部のレンズでは **PZ**) に戻してください。

77

2

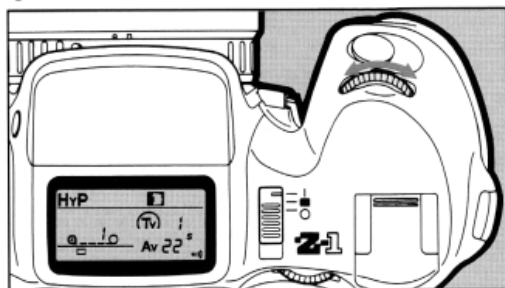


応用的な使い方

2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

* **PF** 設定でオートズーミングの方向を「望遠から広角」に設定してある場合は、焦点距離を望遠側に合わせます。

3



3. 露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。

* ハイパープログラム自動露出とプログラム自動露出では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。

* シャッターを切ってから、オートズーミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズーミングしないで、後半(シャッター速度の残り時間)でオートズーミングを行ないます。例えば、シャッター速度を1秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズーミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。